

市町村における発掘調査の概要

令和4年度（2022年度）

目次

はじめに	4
令和4年度(2022年度)市町村が主体となる発掘調査一覧	5
令和4年度(2022年度)(公財)北海道埋蔵文化財センターによる発掘調査一覧	6
令和4年度(2022年度)大学等による発掘調査一覧	6
市町村における発掘調査成果(令和3年度)	
石狩管内	
札幌市 K434遺跡	7
札幌市 K498遺跡	8
札幌市 H508遺跡	9
江別市 元江別9遺跡	10
江別市 高砂遺跡 20-13地区	11
千歳市 祝梅川矢島遺跡	12
千歳市 キウス周堤墓群	13
恵庭市 島松仲町遺跡	14
恵庭市 柏木川9遺跡	15
胆振管内	
苫小牧市 柏原70・71・72・73遺跡	16
伊達市 カムイタブコブ下遺跡	17
伊達市 ボンマ遺跡	17
白老町 白老仙台藩陣屋跡	18
渡島管内	
函館市 電電公社宿舍遺跡	19
函館市 大船G遺跡	20
函館市 白尻小学校遺跡	21
函館市 大船E遺跡	22
函館市 白尻A遺跡	23
函館市 特別史跡 五稜郭跡	24
森町 鷺ノ木遺跡	25
檜山管内	
江差町 開陽丸	26
上ノ国町 史跡 上之国館跡のうち勝山館跡	27
上ノ国町 史跡 上之国館跡のうち洲崎館跡	28
宗谷管内	
枝幸町 目梨泊遺跡	29
礼文町 香深井1遺跡	30
利尻富士町 利尻神社下遺跡	31
オホーツク管内	
湧別町 シブノツナイ竪穴住居群	32

釧路管内

厚岸町

筑紫恋第一チャシ跡 33

根室管内

中標津町

標津川9遺跡 34

標津町

ポ一川河岸2遺跡 35

はじめに

北海道教育委員会では、北海道内で実施された発掘調査の成果をすみやかに知っていただくために、平成3年度（1991年度）から「市町村における発掘調査の概要」を作成しています。

発掘調査や遺跡の内容について、より詳しく知りたい方は各ページの末尾に記載のある問い合わせ先へお問い合わせください。

また、埋蔵文化財包蔵地の位置については「北の遺跡案内」で情報を公開しているほか、北海道オープンデータポータルからGISデータをダウンロードできます。

「北の遺跡案内」 <https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.html>

北海道オープンデータポータル <https://www.harp.lg.jp/opendata/dataset/1245.html>

末筆ではございますが、本書の編集にあたり、快く原稿執筆に御協力いただきました市町村担当者の皆様に感謝申し上げます。

市町村が主体となる発掘調査一覧（文化財保護法第99条及び125条）

番号	管内	市町村名	遺跡名	登録番号	調査面積 (㎡)	調査原因・理由	
1	石狩	札幌市	N434遺跡	A-01-434	690	その他建物	
2			K498遺跡	A-01-498	2100	道路	
3			H508遺跡	A-01-508	374	詳細分布調査	
4		江別市	高砂遺跡	A-02-12	323	住宅	
5			元江別9遺跡	A-02-86	607	住宅	
6		千歳市	祝梅川矢島遺跡	A-03-47	116	その他建物	
7			キウス周堤墓群	A-03-76ほか	67	史跡整備	
8			パンケビビ18遺跡 パンケビビ19遺跡 パンケビビ20遺跡	A-03-321 A-03-322 A-03-323	114	詳細分布調査	
9			オサツ20遺跡 オサツ21遺跡	A-03-324 A-03-325	240	詳細分布調査	
10			千歳市中央2524番地区	-	6	詳細分布調査	
11			恵庭市	柏木川9遺跡	A-04-26	3039	その他建物
12				島松仲町遺跡	A-04-54	86	住宅
13	胆振		苫小牧市	柏原地区所在遺跡	J-02-312 J-02-313 J-02-314 J-02-315	54	詳細分布調査
14		ボンマ遺跡		J-04-77	237	宅地造成	
15		伊達市	カムイタブコブ下遺跡	J-04-89	60	学術研究	
16		白老町	白老仙台藩陣屋跡	J-10-10	29	史跡整備	
17	渡島	函館市	電電公社台宿舎遺跡	B-01-295	412	道路	
18			大船G遺跡	B-01-302	2890	道路	
19			白尻小学校遺跡	B-01-257	490	道路	
20			大船E遺跡	B-01-303	1630	道路	
21			白尻A遺跡	B-01-237	392	道路	
22		函館市	特別史跡 五稜郭跡	B-01-76	4	史跡整備	
23		森町	鷺ノ木遺跡	B-14-35	97	史跡整備	
24		檜山	江差町	開陽丸	C-01-62	216	学術研究
25	上ノ国町		史跡 上之国館跡のうち勝山館跡	C-02-3	150	史跡整備	
26	上ノ国町		史跡 上之国館跡のうち洲崎館跡	C-02-25	250	史跡整備	
27	宗谷	礼文町	香深井1遺跡	H-05-42	85	道路	
28		枝幸町	目梨泊遺跡	H-08-9	5	学術研究	
29		利尻富士町	利尻神社下遺跡	H-10-19	4	詳細分布調査	
30	オホーツク	湧別町	シブノツナイ 竪穴住居群	I-21-35	22	詳細分布調査	
31	釧路	厚岸町	筑紫恋第1チャシ跡	M-03-80	8	学術研究	
32	根室	中標津町	標津川9遺跡	N-03-56	40	詳細分布調査	
33		標津町	ポー川河岸2遺跡	N-04-183	2	詳細分布調査	

(公財) 北海道埋蔵文化財センターによる発掘調査一覧 (文化財保護法第92条)

番号	管内	市町村名	遺跡名	登録番号	調査面積 (㎡)	調査原因・理由
1	石狩	千歳市	美々4遺跡	A-03-214	640	空港
2	後志	仁木町	モンガクC遺跡	D-18-6	2090	道路
3	渡島	函館市	サルカイ遺跡	B-01-218	320	河川
4		松前町	福山城下町遺跡	B-02-29	603	道路
5	十勝	帯広市	空港南A遺跡	L-01-27	1380	空港

大学等による発掘調査一覧 (文化財保護法第92条)

番号	管内	市町村名	遺跡名	登録番号	調査面積 (㎡)	調査原因・理由
1	石狩	札幌市	K39遺跡	A-01-39	50	ガス・電気・水道
2					20	電気・水道
3					69	道路
4					153	学術研究
5	後志	蘭越町	立川遺跡	D-05-2	5	学術研究
6		倶知安町	峠下遺跡	D-11-1	10	学術研究
7			6	学術研究		
8	胆振	伊達市	有珠モシリ遺跡	J-04-61	180	学術研究
9		豊浦町	礼文華遺跡	J-05-3	89	学術研究
10	宗谷	稚内市	オンコロナイ遺跡隣接地	-	25	学術研究
11			珊内川左岸	-	27	学術研究
12	オホーツク	北見市	鱒牛内20遺跡	I-02-483	29	学術研究
13			大島2 (TK-11) 遺跡	I-02-327	10	学術研究
14				159	学術研究	
15		置戸町	置戸山2遺跡	I-13-105	6	学術研究

調査理由	開発事業(その他建物)
調査地	札幌市西区八軒4条東5丁目757-13ほか
調査主体	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)
調査期間	令和4年(2022年)6月1日～8月12日
調査面積	690㎡

N434遺跡は、JR八軒駅の南南東約0.7kmに位置し、札幌市北部の沖積平野を北流する琴似川の左岸に立地します。平成29年度の第1次調査では、今回の調査区の北側6,060㎡を調査し、擦文文化、続縄文文化、縄文文化の遺物包含層が発見されました。令和4年度の第2次調査では、擦文文化、縄文文化の遺物包含層が発見されました。

擦文文化の遺物包含層では、竪穴住居跡4軒、炉跡3基が発見されました。竪穴住居跡のうち3軒は擦文前期、1軒は擦文中期以降につくられたと考えられます。

縄文晩期の包含層では、住居跡2軒、土坑6基、炉跡6基等が発見されました。2軒の住居跡はつくられた時期が若干違いますが、いずれも浅く窪み、中央に炉がある構造でした。

なお、発掘調査の成果については、令和5年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。



N434遺跡 調査区全景



N434遺跡 縄文晩期住居跡調査状況

お問い合わせ先：札幌市埋蔵文化財センター

所在地：札幌市中央区南22条西13丁目 電話番号：011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：祝日・振替休日・年末年始。ただし、5月3～5日、11月3日は開館)

調査理由	開発事業(道路)
調査地	札幌市北区屯田町1029-14ほか
調査主体	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)
調査期間	令和4年(2022年)8月22日～11月11日
調査面積	2.100㎡

K498遺跡は、札幌市営地下鉄南北線麻生駅から北東へ約4.3km、石狩市との市境に位置しています。沖積平野の北端部に立地し、遺跡の北約170mを発寒川が流れています。現在の海岸線から遺跡までは約6.3kmで、遺跡付近の現在の標高は約2.6mです。

今回の発掘調査では、縄文文化の遺物包含層が確認されました。遺物は、縄文土器や石鏃などが出土しています。

なお、発掘調査の成果については、令和8年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。



N498遺跡 土器出土状況

お問い合わせ先：札幌市埋蔵文化財センター

所在地：札幌市中央区南22条西13丁目 電話番号：011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：祝日・振替休日・年末年始。ただし、5月3～5日、11月3日は開館)

調査理由	詳細分布調査
調査地	札幌市東区丘珠町571番地3
調査主体	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)
調査期間	令和4年(2022年)8月25日～9月28日
調査面積	374㎡

H508遺跡は、札幌市北部に広がる沖積平野に立地する縄文晩期～続縄文初頭の遺跡で、モエレ沼の南西側に位置しています。現地表面の標高は5m前後、縄文晩期～続縄文初頭の旧地表面の標高は3m前後です。

H508遺跡は、札幌市農業体験交流施設「サッポロさとらんど」内に所在しており、平成30年5月に体験学習施設「丘珠縄文遺跡」としてオープンしました。これまで、平成25・26年度に確認調査を実施し、平成30年度から遺跡の詳細を把握することを目的として、毎年発掘調査を実施しています。

令和4年度は、前年度から引き続き、同じ地区で続縄文初頭頃の炉跡等を調査しました。

なお、発掘調査の成果については、令和5年度末に調査概報を刊行する予定です。



H508遺跡 調査状況

お問い合わせ先：札幌市埋蔵文化財センター

所在地：札幌市中央区南22条西13丁目 電話番号：011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：祝日・振替休日・年末年始。ただし、5月3～5日、11月3日は開館

調査理由	開発事業(その他建物)
調査地	江別市元江別本町37-97・98
調査主体	江別市教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)5月7日～6月18日
調査面積	607㎡

元江別9遺跡は江別市役所北西800m程に位置する遺跡です。調査地区周辺はかつて元江別方面から石狩川へ向かって流れていたモショッケ川支流の中流域沿いにあたり、遺跡周辺の沢は宅地造成などにより埋め立てられ、平坦な地形になっています。

昭和50年度に江別市教育委員会が実施した一般分布調査によって所在が確認され、その後平成13年の詳細分布調査では縄文時代中期後半の土器片246点、石器類229点の遺物が得られました。

今年度の調査では土壌4基、焼土1か所を発見し、調査区はこれまで農地や宅地として利用されてきましたが、北筒式土器など縄文時代中期後半頃の土器や石器が出土しました。調査成果は他遺跡の調査分と併せて令和5年度に報告書を刊行する予定です。



縄文時代中期頃の土器



土壌

お問い合わせ先：江別市郷土資料館

所在地：江別市緑町西1丁目38 電話番号：011-385-6466

開館時間：9:30～17:00(最終入館16:30)

閉館日：月曜日・祝日の翌日・年末年始

調査理由	個人住宅
調査地	江別市高砂町20-13
調査主体	江別市教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)6月21日～7月31日
調査面積	323㎡

高砂遺跡はJR高砂駅の北西側に広がる遺跡です。かつてJR野幌駅付近から石狩川にかけて流れていた旧モショッケ(虫除)川の右岸に位置しています。発掘調査は昭和39年からこれまでに20回以上実施していますが、未だに住居跡や土壌などの遺構が発見される市内でも大きな遺跡です。

これまでの調査で縄文時代早期～擦文時代の土器・石器などが110万点以上出土しており、住居跡は240軒以上、墓や落し穴などの土壌は1600基以上発見されています。

今年度は焼土が多数分布するエリアと縄文時代晩期のお墓が多く発見されているエリアの2か所を調査しました。20-13地区では土壌1基、焼土16か所を発見し、遺物は縄文時代中期頃の土器や石器等が出土しました。調査成果は令和5年度に報告書を刊行する予定です。



焼土

お問い合わせ先：江別市郷土資料館

所在地：江別市緑町西1丁目38 電話番号：011-385-6466

開館時間：9:30～17:00(最終入館16:30)

閉館日：月曜日・祝日の翌日・年末年始

調査理由	開発事業(住宅)
調査地	千歳市寿1丁目15-1~3、16-1・2
調査主体	千歳市教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)8月24日~9月15日
調査面積	116㎡

祝梅川矢島遺跡はJR千歳駅の東約3kmの市街地、祝梅川上流の左岸に位置しています。発掘調査により竪穴住居跡1軒、土坑墓13基、小型の土坑2基の遺構と472点の遺物が出土しました。

竪穴住居跡は、出土遺物から縄文時代中期後半に作られたものと考えられます。土坑墓はいずれも後期後葉のものです。長さ1m前後の楕円形のもが主体ですが、近くに墓標痕のある1.6m程の長大なものも存在します。これらはまとまった範囲から特徴的な配置がなされています。竪穴住居跡の埋没途中のくぼみの中心に前述の長大な墓坑があり、くぼみの縁付近に沿って9基の墓穴が円環状に配置されていました。また、13基中7基の墓穴にはベンガラが撒かれていました。副葬品として石斧、玉、石棒が見つかっています。

なお、発掘調査の成果については、令和4年度末に調査報告書を刊行する予定です。



竪穴住居跡と土坑墓群



墓坑に副葬されていた石棒

お問い合わせ先：千歳市埋蔵文化財センター

所在地：千歳市長都42-1 電話番号：0123-24-4210

開館時間：9:00~17:00 閉館日：土日(毎月第2日曜日は除く)・祝日・年末年始

ホームページ：<http://www.city.chitose.lg.jp/docs/95-43785-169-915.html>

調査理由	史跡整備
調査地	千歳市中央2777番
調査主体	千歳市教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)6月1日～9月8日
調査面積	67㎡

史跡キウス周堤墓群は、縄文時代後期後葉の集団墓地群の遺跡です。JR千歳駅から北東に約8km離れた長沼低地東縁の馬追丘陵西裾に位置しており、史跡を構成する9基の周堤墓はかつての広大な湿地帯と丘陵に挟まれた標高15～21mの段丘面に立地しています。

本史跡の発掘調査は、大正6年(1917)、昭和39～40年(1964～65)、平成25～29年(2013～17)の小規模なトレンチ調査に留まります。昭和時代の調査では、キウス1号周堤墓の土堤の内側で土坑墓を5基、キウス2号周堤墓で土坑墓を1基発掘しています。

今回の調査は、昭和時代のキウス1号周堤墓の発掘区(面積67㎡)を対象として、当時の報告内容を確認・検証するための再発掘です。再発掘は埋戻し土等を除去して、土坑墓等の遺構を含む発掘区の掘り方を検出する作業です。これらの位置と規模を特定するとともに、発掘区壁面に観察された地層を記録しています。周堤墓竪穴部では床面がほぼ全面的に検出されていたことを確認しました。中央付近の墓坑は4基の掘り方を検出し、周堤箇所では旧地表を掘り下げローム層に掘削が及んでいることを確認しています。

今後、令和4年度実施のキウス2号周堤墓の再発掘の結果とあわせて、5年度の整理作業で詳細な確認・検証を行い、6年度以降に発掘調査報告書の刊行を予定しています。



キウス1号周堤墓近景(北東から)

千歳市文化財キャラクター
ママチくん

お問い合わせ先：千歳市埋蔵文化財センター

所在地：千歳市長都42-1 電話番号：0123-24-4210

開館時間：9:00～17:00 閉館日：土日(毎月第2日曜日は除く)・祝日・年末年始

ホームページ：<http://www.city.chitose.lg.jp/docs/95-43785-169-915.html>

調査理由	開発事業(住宅)
調査地	恵庭市島松仲町3丁目343
調査主体	恵庭市教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)5月25日～6月24日
調査面積	86㎡

遺跡は、JR千歳線島松駅から南に約700メートルに位置し、柏木川左岸台地上に立地しています。平成5年度に柏木川改修工事に伴う仮設線路工事に伴い調査が行われ、約6,200点の遺物が発見されましたが、住居跡などの遺構は見つかりませんでした。

島松仲町遺跡の2回目の発掘となる令和4年度の調査地は、柏木川の左岸側の住宅地の中に位置し、現況河川から約400mの距離にあります。今回の発掘調査で確認された遺構は、土坑1基、焼土2か所があり、出土した遺物は約580点になります。出土した遺物は、殆どを縄文土器が占め、縄文時代中期～後期前葉を主体とし、早期後半の土器も出土しています。確認された土坑・焼土は、ともに縄文時代中期頃のものと考えられます。なお、旧石器・続縄文・擦文・アイヌ文化期に相当する遺構や遺物は確認されませんでした。



調査区北側 完掘



調査区南側 完掘

お問い合わせ先：恵庭市郷土資料館

所在地：恵庭市南島松157-2 電話番号：0123-37-1288

開館時間：9:30～17:00

閉館日：月曜(休日を除く)・休日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

恵庭市 柏木川9遺跡

A-04-26

調査理由	開発事業(店舗)
調査地	恵庭市柏陽町3丁目266-1ほか
調査主体	恵庭市教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)7月20日～11月4日
調査面積	3,039㎡

遺跡はJR恵み野駅の西500mに位置し、柏木川(延長10.2km)の上流右岸段丘上に立地します。平成19年に市教委により詳細分布調査が行われており、令和4年度は民間の開発事業に伴う発掘調査が市教委により行われました。

調査区域は2か所に分かれており、広い区域をA区(2,679㎡)、それより約60m北西側の細長い区域をB区(360㎡)としました。遺構はA区で竪穴建物跡7基・土坑墓2基・土坑70基(いずれも縄文中期が多い)、B区で竪穴建物跡8基(縄文早期6、縄文前期1、擦文1)、土坑15基などが確認されました。遺物は約6,000点で、土器は縄文早～後期と擦文が見つっています。

整理作業は令和5年度に予定されており、上記の遺構・遺物の数や時期は令和5年1月時点での推定です。



遺跡遠景



B区の集落(縄文早期)

お問い合わせ先：恵庭市郷土資料館

所在地：恵庭市南島松157-2 電話番号：0123-37-1288

開館時間：9:30～17:00

閉館日：月曜(休日を除く)・休日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

苫小牧市 柏原70・71・72・73遺跡

J-02-312/313/314/315

調査理由	詳細分布調査
調査地	苫小牧市字柏原24-1、149-1
調査主体	苫小牧市埋蔵文化財センター
調査期間	令和4年(2022年)9月1日～9月28日
調査面積	45㎡

苫東開発区域内の柏原地区の調査で、新たに柏原70・71・72・73遺跡を発見しました。

遺構として柏原70遺跡で落し穴を1基確認しました。遺物は柏原71遺跡で土器1点、柏原72遺跡で石器2点、柏原73遺跡で石器が1点出土しています。いずれも縄文時代のものです。報告書は令和5年度に刊行予定です。



遺跡位置図



調査の様子

お問い合わせ先：苫小牧市埋蔵文化財調査センター

所在地：苫小牧市末広町3丁目9番7

電話番号：0144-35-2550

閉館日：月曜、年末年始

伊達市 カムイタブコブ下遺跡・ボンマ遺跡 J-04-89・77

カムイタブコブ下遺跡

調査理由 学術調査

調査地 伊達市向有珠町99-1

調査主体 伊達市教育委員会

調査期間 令和4年(2022年)11月14日～11月18日

調査面積 60㎡

伊達市教育委員会が実施したカムイタブコブ下遺跡の学術目的の調査(科研費19H01352研究代表者:添田雄二)では、17世紀中頃にアイヌ民族によって営まれた畑跡や貝塚のほか、1663年の有珠山噴火後に建てられた掘立柱建物跡とみられる柱穴列が検出されました。



カムイタブコブ下遺跡 発掘調査区

ボンマ遺跡

調査理由 開発事業(宅地造成)

調査地 伊達市向有珠町83-2

調査主体 伊達市教育委員会

調査期間 令和4年(2022年)12月21日～12月27日

調査面積 237㎡

ボンマ遺跡で実施された宅地造成に伴う調査(調査面積237㎡)では、近世アイヌ文化期の墓が7基検出されました。いずれも1663年の有珠山噴火以降の土坑墓です。調査は伊達アイヌ協会、洞爺湖町教育委員会、登別市教育委員会の協力を得て実施されました。

お問い合わせ先 : 伊達市教育委員会生涯学習課文化係

電話番号:0142-82-3299

メールアドレス:bunka@city.date.hokkaido.jp

調査理由	詳細分布調査
調査地	白老郡白老町陣屋町1168
調査主体	白老町
調査期間	令和4年(2022年)6月17日～11月30日
調査面積	29㎡

本調査は『史跡白老仙台藩陣屋跡整備基本計画』の策定のため、『史跡白老仙台藩陣屋跡保存活用計画』に基づいて、仙台藩士が安政3年(1856年)から慶応4年(1868年)にかけて警衛した白老元陣屋の遺構のうち、外曲輪に存在すると考えられる東御門跡と、それを画した枡形土塁跡の確認を目的に実施しました。

調査は現況の土塁と平行にトレンチを設け、その下に遺る仙台藩士造営の土塁の検出を図るとともに、土塁と直角な2本のトレンチにより表土まで深掘することで、藩士警衛時の土塁の立上りの検出も試みました。

調査の結果、本年度調査した範囲から藩士造営時の土塁は検出されませんでした。現況の土塁は想定より曲輪側へ迫り出しており、近現代以降の整備等による盛土の範囲が広いことが判明しました。

以上を踏まえ、仙台藩士造営時の土塁等の実態確認は、令和5年度も調査を継続する方向で調整を進めています。



お問い合わせ先： 仙台藩白老元陣屋資料館

所在地：白老郡白老町陣屋町681-4 電話番号：0144-85-2666

メールアドレス：jinya@town.shiraoi.hokkaido.jp

開館時間：9:30～16:30

閉館日：月曜(祝日の場合は翌日)・年末年始(12/29～1/3)

調査理由	開発事業(道路)
調査地	函館市白尻町337-1
調査主体	函館市教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)5月9日～6月22日
調査面積	412㎡

遺跡は、白尻漁港西隣へと注ぐ無名の小河川の上流、標高約34～38mの海岸段丘上緩傾斜地に位置し、平成27年から白尻漁港臨港道路建設に伴い調査を開始して、今年度で6度目の調査になります。

今年度の調査は縄文時代前期以降の遺物包含層（Ⅲ層）と、縄文時代早期の遺物包含層（Ⅴ層）について実施しました。

Ⅲ層で検出した遺構は、土坑7基、焼土2ヵ所です。遺物は、縄文時代中期～後期の土器、石鏃、スクレイパー、石斧、敲石、擦石、石皿、岩偶など約1,000点が出土しました。

Ⅴ層で検出した遺構は、土坑6基、柱穴状土坑3基です。遺物は、早期後葉の土器、石鏃、スクレイパー、擦石など約1,000点が出土しました。



電電公社合宿舎遺跡 作業状況

お問い合わせ先：函館市教育委員会 生涯学習部 文化財課

所在地:函館市東雲町4番13号 電話番号:0138-21-3472

メールアドレス:bunkazai@city.hakodate.hokkaido.jp

調査理由	開発事業(道路)
調査地	函館市大船町533-5ほか
調査主体	函館市教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)5月10日～9月2日
調査面積	2,890㎡

遺跡は、函館市大船町の木田川左岸と大船中村川右岸との間、標高約45～62mの海岸段丘に位置し、令和元年に964㎡についてⅢ層調査を実施しています。

今年度の調査は縄文時代前期以降の遺物包含層（Ⅲ層）と、縄文時代早期の遺物包含層（Ⅴ層）について実施しました。

Ⅲ層で検出した遺構は、竪穴建物跡19軒、土坑52基、柱穴状土坑48基、石器埋納遺構1基、焼土4カ所、剥片集中1カ所です。竪穴の構築時期は縄文時代中期後葉（榎林式期、大安在B式期）と後期初頭（天祐寺式期、涌元式期）です。

遺物は、縄文時代中期～晩期、続縄文時代の土器、石鏃、スクレイパー、石斧、擦石、石皿などの石器類約8,000点が出土しました。

Ⅴ層の調査では、早期中葉と考えられる貝殻文や無文の土器、石鏃、スクレイパー、石斧など約100点が出土しました。



調査区南側Ⅲ層完掘(南東から)



調査区北側Ⅲ層完掘(北から)

お問い合わせ先：函館市教育委員会 生涯学習部 文化財課

所在地:函館市東雲町4番13号 電話番号:0138-21-3472

メールアドレス:bunkazai@city.hakodate.hokkaido.jp

調査理由	開発事業(道路)
調査地	函館市白尻町340-5
調査主体	函館市教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)6月23日～9月16日
調査面積	490㎡

遺跡は、白尻漁港西隣へと注ぐ無名小河川のの上流、標高約30～35mの海岸段丘上緩傾斜地に位置し、令和3年から白尻漁港臨港道路建設に伴い調査を開始して、今年度で2度目になります。

今年度の調査は縄文時代前期以降の遺物包含層(Ⅲ層)と、縄文時代早期の遺物包含層(V層)について実施しました。

Ⅲ層で検出した遺構は、竪穴建物跡3軒、土坑21基、焼土6ヵ所、屋外炉2基、埋設土器2基、剥片集中1ヵ所、立石1基です。遺物は、縄文時代後期～晩期の土器、石鏃、スクレイパー、磨石、石錘など約10,000点が出土しました。

V層で検出した遺構は、竪穴状遺構1基、土坑1基、焼土4ヵ所です。遺物は、早期中葉～後葉の土器、石鏃、スクレイパー、石斧、擦石、石錘など約500点が出土しました。



白尻小学校遺跡 作業状況

お問い合わせ先：函館市教育委員会 生涯学習部 文化財課

所在地:函館市東雲町4番13号 電話番号:0138-21-3472

メールアドレス:bunkazai@city.hakodate.hokkaido.jp

調査理由	開発事業(道路)
調査地	函館市大船町513-1
調査主体	函館市教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)9月5日～11月25日
調査面積	1,630㎡

遺跡は、函館市大船町の大船中村川左岸と佐藤川右岸の間、標高約53～60mの海岸段丘に位置しています。

今年度の調査は縄文時代前期以降の遺物包含層(Ⅲ層)と、縄文時代早期の遺物包含層(V層)について実施しました。

Ⅲ層で検出した遺構は、竪穴建物跡7軒、土坑墓1基、土坑6基、柱穴状土坑13基、埋設土器1基、焼土5ヵ所、剥片集中1ヵ所、炭化物集中1ヵ所です。竪穴の構築時期は縄文時代中期と後期前葉(大津式期)です。

遺物は、縄文時代中期～晩期・続縄文時代の土器、石鏃、スクレイパー、石斧、擦石、石皿などの石器類やスタンブ型土製品、炭化したクリなど約2,500点が出土しました。

V層の調査では、土坑2基、柱穴状土坑3基を検出しました。早期中葉の尖底土器(ノダップI式)や、スクレイパー、石鏃、石皿など約90点が出土しました。



大船E遺跡 作業風景(南東上空から)



大船E遺跡 全景(南東上空から)

お問い合わせ先：函館市教育委員会 生涯学習部 文化財課

所在地:函館市東雲町4番13号 電話番号:0138-21-3472

メールアドレス:bunkazai@city.hakodate.hokkaido.jp

調査理由	開発事業(道路)
調査地	函館市白尻町357-2
調査主体	函館市教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)9月20日～11月30日
調査面積	392㎡

遺跡は、白尻町の弁天岬に面した標高約40mの海岸段丘上に位置し、平成26年から白尻漁港臨港道路建設に伴い調査を開始して、今年度で3度目の調査になります。

今年度の調査は縄文時代前期以降の遺物包含層(Ⅲ層)と、縄文時代早期の遺物包含層(V層)について実施しました。

Ⅲ層で検出した遺構は、竪穴建物跡1軒、土坑30基、柱穴状土坑26基(掘立柱建物跡3軒含む)、落し穴1基です。遺物は、縄文時代後期の土器、石鏃、スクレイパー、擦石、石錘、石皿、線刻石製品など約1,500点が出土しました。

V層で検出した遺構は、土坑5基、柱穴状土坑3基、焼土1ヵ所です。遺物は、早期後葉の土器、石鏃、スクレイパー、擦石など約100点が出土しました。



白尻A遺跡 作業状況

お問い合わせ先：函館市教育委員会 生涯学習部 文化財課

所在地:函館市東雲町4番13号 電話番号:0138-21-3472

メールアドレス:bunkazai@city.hakodate.hokkaido.jp

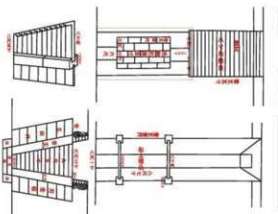
調査理由	史跡整備
調査地	函館市五稜郭町
調査主体	函館市教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)9月14日～11月15日
調査面積	4㎡

五稜郭跡は、幕末の箱館開港に伴い設置された箱館奉行所の外郭施設として築造された西洋式城郭で、北海道唯一の国の特別史跡に指定されています。

令和4年度は、五稜郭唯一の排水施設となる半月堡西側枝堀に設けられた堀排水口部石垣の保存修理に伴い、石垣解体にあわせて石垣背面の裏込め層の土層堆積状況を調査しました。

調査の結果、堀排水口部に設けられた堰板受け石の背面から、刃金板が7枚検出されました。刃金板はヒバ材で堰板受け石背面の溝に沿って縦に差し込まれ、板の合わせ目は相決りで組まれていました。また刃金板の前後には粘土が詰め込まれ、板で押さえられていました。

検出された遺構は、五稜郭の築造に関する古文書に描かれた堀排水口部の図面とおりの構造で、堰止め部分の石垣背面からの漏水を防ぐための工夫であったものと考えられます。



「馬出堀洗堰悪水抜埋樋絵図」(『五稜郭創置年月取調書』所収)
の書き下し 函館市中央図書館蔵

堰板受け石の背面で検出された刃金板

お問い合わせ先：函館市教育委員会 生涯学習部 文化財課

所在地:函館市東雲町4番13号 電話番号:0138-21-3472

メールアドレス:bunkazai@city.hakodate.hokkaido.jp

調査理由	史跡整備
調査地	茅部郡森町字鷺ノ木町492-5
調査主体	森町教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)6月6日～11月9日
調査面積	97㎡

鷺ノ木遺跡は内浦湾の海岸線から約1kmの内陸に位置し、桂川支流の上毛無沢川と下毛無沢川に挟まれた舌状台地に立地しています。標高約70mの高位段丘面からは縄文時代後期の環状列石、竪穴墓域等が発見されています。標高34～50mの低位段丘面からは、土坑と縄文時代後期の遺物が出土しています。

今年度は史跡整備を目的として環状列石の周辺と中央配石の調査を行いました。環状列石の周辺では、幅0.5m、長さ1～4mの調査区を47箇所、中央配石は最大幅30cmの調査区をそれぞれ設定して掘削を行い、環状列石の周辺で土坑4基の遺構と石器の碎片を主とする621点の遺物が出土しました。中央配石では、配石の下で土坑と思われる堆積状況が確認されたほか、現地表面より約50cm下で礫が1個発見されました。遺物は石器の碎片が2点と土器片が7点出土しています。

遺構の性格を検討するため、次年度も継続して調査を行う予定です。



史跡鷺ノ木遺跡環状列石 全景



中央配石 礫検出状況

お問い合わせ先：森町教育委員会

電話番号:01374-2-2186

森町の遺跡をもっと知りたい方は、森町遺跡発掘調査事務所までご連絡ください。

森町遺跡発掘事務所 電話番号:01374-3-2240

開館時間:9:00～16:00 閉館日:土日・祝日・年末年始

調査理由	学術調査
調査地	檜山郡江差町字中歌町350m沖
調査主体	江差町教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)7月29日～8月5日
調査面積	216㎡

▼簡単に分かりやすい概要動画を
YouTubeで公開しています。



明治元年に江差で沈没した開陽丸は、昭和50年から海底遺跡として発掘調査されました。引き揚げられなかった大型船体は、平成元年に銅網を被せて海底保存しました。

船体の大きさは12×18mで、水深7～8mの海底で保存しています。本調査は、海底保存中船体の現状確認調査です。

調査は、①船体の状態確認②保存環境の確認を目的に実施しました。海底の船体にはヘドロが多く堆積していたため、ウォータードレージという機器で除去しました。

船体を覆う銅網が剥離して、木造船体が露呈した箇所がありました。その船体は虫害や腐食が見られ、腐朽が進んでいることを確認しました。

調査最終日には、船体の保存環境を把握するため、海中の溶存酸素量を計測するデータロガーを設置しました。ロガーは、7ヶ月間記録が可能で、令和5年3月に回収予定です。



調査風景(防波堤から)



データロガー設置風景

お問い合わせ先：江差町教育委員会 社会教育課 地域文化係

所在地：檜山郡江差町字中歌町193-1

電話番号：0139-52-1047 FAX:0139-52-0234

調査理由	史跡整備
調査地	檜山郡上ノ国町字勝山423-1
調査主体	上ノ国町教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)5月16日～11月22日
調査面積	150㎡

令和4年度に実施した勝山館跡の発掘調査では、主郭西側の鶴の池周辺に調査区を設定し、集石遺構や礎石建物跡を検出しました。

集石遺構は、鶴の池から延びる沢状の窪みで検出しました。これは、縄文時代(中期前半)から近現代に堆積したものであることや、中世には沢が存在したことが明らかになりました。また、946年降下のB-Tm火山灰より下位の集石からは縄文土器や石器が出土しています。

昨年度の調査で礎石が確認された地点の北東側では、4石の礎石を確認しました。これらの礎石は昨年度に確認した礎石と一連のもので、同一の礎石建物に伴う遺構であると考えられます。

礎石の大きさは約50cmで1640年降下のKo-d火山灰の下から見つかっていることから、中世の礎石と考えられます。建物規模は、5.6尺(170cm)四方と思われる、柱間が5.6尺(170cm)と2.6尺(85cm)となっています。



勝山館跡 遺景



礎石検出状況

お問い合わせ先：上ノ国町教育委員会

所在地：檜山郡上ノ国町字大留100番地

電話番号：0139-55-2230

上ノ国町 史跡上之国館跡のうち洲崎館跡 C-02-25

調査理由	史跡整備
調査地	檜山郡上ノ国町字北村137-1
調査主体	上ノ国町教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)5月16日～11月22日
調査面積	250㎡

令和4年度に実施した洲崎館跡の発掘調査では、砂館神社西側周辺に調査区を設定し、柱穴や空堀状の遺構を検出しました。

調査区では5基の柱穴が確認されました。柱痕を伴い、柱間は約180cmです。これらの柱穴は1640年降下のKo-d火山灰を掘りこんでいること、また柱痕下からナイロン袋の破片が出土したことから、現代のものと判断されます。昨年度調査時に周辺で柱穴列を検出していますが、柱間寸法や軸が異なっていることから今年度に検出したものとは別の建物遺構であると考えられます。

空堀状の遺構では、造成の際の明確な掘りこみなど、空堀であることを積極的に支持する痕跡は認められませんが、曲輪との位置関係などから空堀の遺構と解釈するのが妥当であると考えられます。



洲崎館跡 遺景



Ko-d火山灰検出状況

お問い合わせ先：上ノ国町教育委員会

所在地：檜山郡上ノ国町字大留100番地

電話番号：0139-55-2230

調査理由	学術調査
調査地	枝幸郡枝幸町目梨泊43番地2
調査主体	枝幸町教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)8月7日～8月11日
調査面積	5㎡

目梨泊遺跡は枝幸町の北部、神威岬を望むオホーツク海に面した段丘上に立地しています。

道北地方を代表するオホーツク文化期の集落遺跡であり、出土品の一部はオホーツク文化の交流・交易の様相を伝える資料として、平成12年に国の重要文化財に指定されました。

平成30年の調査では、オホーツク文化期の竪穴式住居跡の近くから、仏教に由来する「宝相華文」を刀装具に刻んだ「蒔絵金銅装直刀」が出土しました。道内では他に例のない豪華な刀剣であり、オホーツク文化の人びとの広範囲な動きを伝える貴重な資料です。令和4年の調査では、過去に実施した調査区と平成30年以降の調査区の位置関係を整理することができました。また、魚獣骨が廃棄されたブロックを検出し、火を受けた痕跡のある石製品を確認しました。オホーツク文化の人びとの儀礼を明らかにする発見と考えています。



目梨泊遺跡からみた神威岬



鯨骨製の骨斧の出土

お問い合わせ先：オホーツクミュージアムえさし

所在地：枝幸郡枝幸町三笠町1614番地1 電話番号：0163-62-1231

開館時間：9:00～17:00

閉館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、毎月末の火曜日、年末年始

重要文化財を含むオホーツク文化の資料を多数展示しています。観覧無料。

調査理由	開発事業(道路)
調査地	礼文郡礼文町大字香深井字カフカイ11-9、55、56、58、65
調査主体	礼文町教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)6月1日～8月31日
調査面積	85㎡

香深井1遺跡は、礼文島のほぼ中央、香深井湾の海岸砂丘上に立地し、西側に沖積地、東側は海に面しています。

この遺跡は、昭和28年にオホーツク土器を伴う遺跡であることが公表され、その後の北海道大学による調査の成果によって、道北を代表するオホーツク文化の遺跡として知られています。

令和2年に道路工事に先立って調査が始まり、砂丘の頂部から海岸へ至る斜面を継続して発掘しています。調査区が極めて海に近いことが特徴で、海での生活に特化したオホーツク文化の生活を復元する上で示唆に富むものです。

今年度は、集石炉が6基、紀元7～8世紀ごろにあたと考えられる土器や骨製品、食料となった動物の骨や貝殻が出土しました。

なお、来年度以降も調査を継続する予定で、開発予定地の調査完了後に報告書を刊行する計画です。



調査区 位置図



ミニチュア土器出土状況

お問い合わせ先：礼文町教育委員会

電話番号:0163-86-2119

礼文町郷土資料館 ホームページ:<http://rebun-museum.org>

所在地:礼文郡礼文町大字香深井字ワウシ958-4 開館時間:8:30～17:00

閉館日:月曜日・祝日の翌日。ただし6月～9月は無休、11月～翌年4月までは冬季休館

利尻富士町 利尻神社下遺跡

H-10-19

調査理由 詳細分布調査

調査地 利尻郡利尻富士町鷺泊字栄町227番地11

調査主体 利尻富士町教育委員会

調査期間 令和4年(2022年)10月29日～10月31日

調査面積 4㎡

利尻神社下遺跡は、ノボリオマナイ川を挟んだ両岸に位置しています。時期は、縄文時代とされていますが、これまで詳細な調査は行なわれておらず性格は不明です。隣接する栄町キャンプ場遺跡では、利尻島内で唯一の旧石器時代の資料が発見されていますが、その所在は現在不明となっています。また、その発見地点が、当時の



令和4年度(2022年度)調査地点(★印)

資料から類推して、利尻神社下遺跡寄りであることが判明し、今回詳細分布調査を行いました。包蔵地内は、マツ林や笹原で覆われているため、限定的な調査となりましたが、テストピットよりわずかな土器片(オホーツク式か)と黒曜石剥片が出土しました。遺物包含層については、削平されていましたが、次年度においても地点を変えて調査に取り組む予定です。



利尻神社下遺跡調査状況

お問い合わせ先：利尻富士町教育委員会

電話番号:0163-82-1370

メールアドレス:kyoui-shakyo@town.rishirifuji.hokkaido.jp

遺跡出土資料の展示は、りっぶ館へ

(電話番号:0163-82-1721。5月1日～10月15日開館)

湧別町 シブノツナイ竪穴住居群

I-21-35

調査理由	詳細分布調査
調査地	紋別郡湧別町川西502-1、502-2、503、1056
調査主体	湧別町教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)7月14日～8月20日
調査面積	22㎡

シブノツナイ竪穴住居群は、湧別川の河口から西に約3km、オホーツク海から内陸に約100mの標高約5mの台地上に立地しています。遺跡の特徴は、竪穴住居跡と考えられる窪みが530基も地表で確認できることです。昭和42年3月17日には北海道の史跡に指定されました。

昭和30～40年代に行われた発掘調査では、竪穴住居跡が縄文文化期のものであることが確認されました。平成30年からはより詳細な年代を特定するための調査を行っており、発掘した4基の竪穴住居跡はどれも縄文文化の後期(11世紀前半から12世紀中頃)ということが確認できました。今年度の発掘では、縄文文化やオホーツク文化の可能性があった竪穴住居跡が縄文文化のものであることが確認できました。

調査概要報告書は令和5年3月に刊行予定です。発掘調査は来年度も実施予定です。



発掘調査区遠景



発掘調査区全景

お問い合わせ先：湧別町教育委員会ふるさと館JRY・郷土館

電話番号：01586-2-3000

開館時間：9:00～16:30(入館は16時まで)

休館日：月曜日(祝日は開館)、年末年始(12/30～1/4)

調査理由	学術調査
調査地	厚岸郡厚岸町筑紫恋35、36
調査主体	厚岸町教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)11月14日～11月17日
調査面積	8㎡

筑紫恋第一チャシ跡は、市街地から5キロほど南に離れた標高約50mの独立丘陵上に位置する丘頂式のチャシです。チャシの南側には厚岸湾が広がり、大変眺望のよい立地となっています。

この遺跡は昭和36年に東京大学文化人類学教室の岡田宏明先生らによって学術調査が実施されており、チャシ付近の貝塚からはキネなどの骨角器などが出土しています。

本遺跡の第2次調査は今年度から開始し、頂部の台地上にある竪穴様のくぼみの発掘と、チャシの構築における構造および構築年代の解明を目的に実施しました。

令和4年度の調査では、台地上の竪穴住居様のくぼみを横断するトレンチを1m×4m、台地下の壕のトレンチを1m×4mの範囲で設定し、発掘調査を行いました。いずれも日数の制約から完掘することができなかったため、次年度に持ち越して調査を継続する予定です。



遺跡から厚岸湾を臨む



壕の調査状況

お問い合わせ先：厚岸町教育委員会 生涯学習課 海事記念館文化財係

電話番号:0153-52-4040

メールアドレス:k-kaiji@akkeshi-town.jp

調査理由	詳細分布
調査地	標津郡中標津町西8条北5丁目2番1
調査主体	中標津町教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)5月16日～6月4日
調査面積	40㎡

標津川9遺跡は中標津市街地北西部に所在し、標津川によって形成された標高35mの河岸段丘の右岸に立地しています。本遺跡は、旧所有者から当町が埋蔵文化財の保存と活用を考慮して平成28年12月22日に購入したところであり、将来の土地利用に資するため平成29年度から複数年かけて遺跡の範囲及び性格の確認を目的として調査を行っております。

本年度の試掘調査の結果、40地点のテストピットの内、7地点から縄文時代後半の後北C2・D式土器など土器片41点、石器剥片31点の遺物を確認し、遺構と思われる土層を4地点で検出しました。その内、1地点からは後北式C2・D式土器と共に、炉跡を確認しています。来年度は、調査区を広げて調査する予定です。

遺跡の時期は、昭和40年代に町民が縄文土器、後北C2・D式土器、擦文土器を表採しており、これまでの調査においても、縄文土器の前半期(興津式、下田ノ沢式)、後半期(後北式)の土器を発見していることから、縄文時代中期後葉から縄文時代を経て、擦文時代後半期にかけて利用されていたと考えられます。



お問い合わせ先：中標津町教育委員会 社会教育課 学芸係

電話番号:0153-73-3111

中標津町郷土館の開館時間は時期により異なります。ホームページでご確認ください。

ホームページ:https://www.nakashibetsu.jp/kyoudokan_web/

休館日:土日、祝日、年末年始

調査理由	詳細分布調査
調査地	標津郡標津町字伊茶仁1番地21
調査主体	標津町教育委員会
調査期間	令和4年(2022年)8月1日～9月22日
調査面積	2㎡

ぼー川河岸2遺跡は、ぼー川下流域に残る旧流路沿いに形成された竪穴群で、くぼみで残る方形の竪穴5か所が確認できます。

今年度の調査ではこれら竪穴群の測量を行った上で、竪穴の時期把握に向け、1か所の竪穴を対象にトレンチを設定し発掘調査を行いました。調査では竪穴くぼみの中央付近で、炉跡を検出したことから、土壌サンプルを採取しました。出土した遺物は長さ10cm前後の棒状礫のみで、土器や黒曜石製石器などは確認できませんでした。

炉跡からの土壌サンプルを水洗選別して回収した炭化材小片を対象に年代測定を依頼した結果、13世紀代とする結果を得ています。次年度以降、他の竪穴も調査し、竪穴群の年代把握に努める予定です。



ぼー川河岸2遺跡 遠景



ぼー川河岸2遺跡 調査状況

お問い合わせ先：標津町ぼー川史跡自然公園

電話番号:0153-82-3674



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

令和5年3月 発行

市町村における発掘調査の概要 令和4年度(2022年度)

編集・発行

北海道教育庁 生涯学習推進局 文化財・博物館課

〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目

TEL 011-231-4111 内線35-606